

## 平成 30 年度「居住性研究会・林産教育研究会 合同見学会・講演会」開催報告

林産教育研究会 幹事 上越教育大学 東原 貴志

居住性研究会と林産教育研究会では、日本木材学会年次大会の開催期間中、木材の施設・設備への利用例と木育に関する知見を得ることを目的とし、合同施設見学会・講演会を企画立案いたしました。下記のとおり、概要を報告いたします。

【概要】平成 31 年 3 月 16 日に、函館空港多目的ホール HakoDake HaLL と隣接するキッズコーナー／Hakodake Hiroba の施設見学と、講演会を実施しました。HakoDake HaLL は、北海道の木造公共施設等整備の一環として、平成 26 年 7 月にこれまで空きスペースであった函館空港 3 階のホールを、道南スギをはじめとした道産材を多用した内装とし、隣接するウッドデッキとともに、空港利用者が自由に過ごせる空間としたものです。隣接するキッズコーナー／Hakodake Hiroba は、木の感触、木の堅さ、柔らかさを感じる場として、地域の子どもが集まる空間として、平成 26 年 11 月にオープンしたものです。一辺 140cm の木製ユニットで構成され、迷路や滑り台など、子どもが楽しめるように工夫されています。

講演会では、これらの開設に関わりのある北海道渡島総合振興局東部森林室管理課主査の佐藤司氏と株式会社ハルキ製品開発室室長の鈴木正樹氏をお招きし、開設の経緯や使用された木材について語っていただきました。佐藤氏による「HakoDake HaLL・Hakodake Hiroba に込めた思い」では、デザイン性に優れた製品開発や内装木質化を目指して、公共施設の新しい在り方として函館空港の事業に取り組みされたことを説明されました。函館空港の成果は、民間の大規模な木育広場の開設に活かされており、行政の枠にとらわれず、他の部署や民間と連携して地域課題を解決することの重要性を語られました。鈴木氏の「北海道産材の施設・設備への利用と木育の取り組み」では、集成材やプレカット材の製造技術を基盤とし、住宅や店舗、学会大会の会場となった函館アリーナなど、数多くの施設の木造化や内装木質化の事例を紹介されました。さらに、地域の小学校の学習机の天板を道産スギの集成材に交換するプロジェクトでは、間伐をはじめとした森林の手入れ、丸太から製品ができる工程のプレゼンテーションなど、木育の事例を紹介していただきました。

本企画の開催に当たり、講演者ならびに参加者の皆様、また会場をご提供いただきました函館空港ビルディング株式会社の皆様に御礼申し上げます。

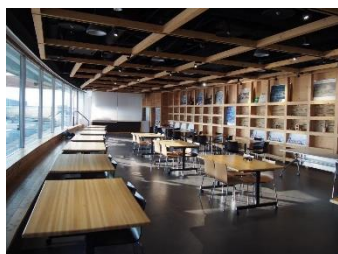


写真 1 HakoDakeHall



写真 2 Hakodake Hiroba の見学会



写真 3 講演会

平成 30 年度「居住性研究会・林産教育研究会 合同見学会・講演会」概要

日 時：平成 31 年 3 月 16 日 14:00～16:00

場 所：函館空港 多目的ホール HakoDakeHaLL・キッズコーナー／Hakodake Hiroba  
(北海道函館市高松町 511)

開催形態：主催：居住性研究会・林産教育研究会【見学会・講演会】

他の主催/共催/協賛団体等：なし

参加者数：26 名

企画立案：居住性研究会幹事：広島大学 木村彰孝、森林総合研究所 杉山真樹

林産教育研究会幹事：上越教育大学 東原貴志、大阪教育大学 永富一之

講演者・会場との調整：北海道立総合研究機構林産試験場 松本久美子

以上